

令和7年度第5回

登別市教育委員会会議録

日 時 令和7年8月28日（木）午後4時30分

場 所 登別市民会館 小会議室

## 第5回 教育委員会議事日程

1 日 時 令和7年8月28日（木）午後4時30分

2 場 所 登別市民会館 小会議室

3 情報提供

- (1) 令和7年度1学期の登別市立学校におけるいじめ・不登校等の状況について
- (2) 令和7年度全国学力・学習状況調査に係る結果の概要と指導のポイントについて
- (3) 令和7年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）の開催について
- (4) 登別市立図書館整備検討委員会における検討結果について

4 出席者

（教育委員会3名）

教育長 安宅 錦也

委員 赤井 秀輝

委員 上村 正人

（事務局11名）

教育部参与

菅田 浩之

教育部次長

西川原 邦彦

総務グループ総括主幹

古村 健

建築主幹

南雲 宏明

学校教育グループ総括主幹

更科 互輝

学務主幹

秋葉 洋範

学校給食センター長

松田 大輔

社会教育グループ総括主幹

大越 智輝

文化・文化財主幹

菅野 修広

図書館長

鈴木 貴寛

事務局（総務グループ）

山中 慧崇

**安宅教育長**：ただいまの出席委員は、3名であります。定足数に達しておりますので、令和7年度第5回教育委員会を開会します。本日の議事については、情報提供4件となっております。

まず「令和7年度1学期の登別市立学校におけるいじめ・不登校等の状況について」説明をお願いします。

**秋葉学務主幹**：令和7年度1学期の登別市立学校におけるいじめ・不登校の状況についてお知らせします。情報提供資料1ページをご覧ください。

はじめに、いじめの認知件数ですが、小学校で383件、中学校で35件、合計418件でした。昨年度の1学期と比べ、34件増加しています。

次に、不登校児童生徒数ですが、小学校で17名、中学校で26名、計43名でした。昨年度の1学期と比べ、小学生が8名増加しているのに対し、中学生は7名減少し、合計では1名増加しています。

次に、適応指導教室「鬼っ子広場」と健千窯の利用状況ですが、鬼っ子広場は小学生が1名、中学生が3名、合計4名が利用しています。健千窯は中学生が3名利用しています。昨年度と比べ、鬼っ子広場の利用者が2名増加しており、健千窯の利用者は9名減少しています。

いじめの認知件数や不登校児童生徒数は近年増加傾向です。引き続き、市教育委員会と学校が連携し、問題の未然防止、早期発見、早期対応に努めてまいります。

以上です。

**安宅教育長**：ただ今説明のありました件について、ご質疑等ございませんか。

(「ありません」の声あり)

**安宅教育長**：次に、「令和7年度全国学力・学習状況調査に係る結果の概要と指導のポイントについて」説明をお願いします。

**秋葉学務主幹**：令和7年度全国学力・学習状況調査に係る調査結果の概要と指導のポイントをまとめましたので、情報提供いたします。情報提供資料の2ページをご覧ください。

今年度は、4月14日(月)から4月30日(水)までの期間に調査が行われ、本市からは小学生280名、中学生243名が参加しました。

調査の内容は、国語科、算数科・数学科、理科の3教科と、生活習慣や学習環境に等を把握する質問調査となっております。

なお、中学校理科については、オンライン形式で実施され、生徒毎に出題内容が異なる形式でした。また、IRTを用いた結果が返却されました。

IRTとは、5ページの下段に記載していますとおり、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で利用されているテストであり、受験者の解答パターンや問題の難易度から、一人一人の能力を測定する理論です。

また、IRTスコアとは、500を基準にした得点（推定学力）です。難易度が高い問題に正答していると高めに、難易度が低い問題に誤答していると低めに算出される特徴があります。

IRTバンドとは、IRTスコアを5段階に区切ったもので3が基準で5が最も高い評価となります。

続いて、3ページをご覧ください。結果の概要について説明します。

はじめに学力調査の概要についてです。

小学校では、国語科、算数科、理科の全教科で全国の平均正答率を下回っていました。特に算数科では全国と7ポイントの差がありました。これは全国よりも約1.1問の問題が解けていないこととなります。

中学校では、国語科と数学科が全国の平均正答率と同等であり、理科が上回っていました。国語科では、本調査対象生徒が小学6年生の時、全国の平均正答率を上回っていたが、今年度は全国平均と同等でした。数学科では、小学6年生の時、全国の平均正答率をやや下回っていたが、今年度は全国平均と同等でした。理科では、小学6年生の時、全国の平均正答率を上回っており、今年度はIRTスコアが10ポイント全国平均を上回っていました。

次に質問調査の結果概要についてです。

本報告書では、令和7年度の教育行政執行方針と関連が深い設問を抽出しております。

まず、「確かな学力」についてですが、12ページ以降に掲載している質問「自分で考え、自分から学習している」「学びを振り返り、次の学習につなげている」「話し合いで考えを深め、新たな考えに気付く」「友だちと協力して課題を解決している」という質問に対して肯定的に回答している割合が全国平均を上回っていることから、意欲的に学習している様子がうかがえました。また、学校でタブレット端末を積極的に活用している様子がうかがえました。一方、6ページの小学校理科に関する質問結果では、「理科が得意である」「理科の授業がよく分かる」と肯定的に回答していますが、学力調査の結果は全国の平均正答率を4.1ポイント下回っていることから、自分の思考や行動を客観的に認識する力を高めることが大切であると考えます。

次に「豊かな人間性」についてですが、「人が困っている時、進んで助ける」「いじめは絶対に許されない」「地域や社会を良くするために行動したい」という質問に対し、肯定的に回答している児童生徒の割合が全国平均を上回っていることから、他者やふる

さと登別を大切にしている様子がうかがえました。引き続き、本市の産業や文化への理解を深め、家庭や地域の人たちと連携したキャリア教育を推進することが大切であると考えます。一方、「困ったとき、学校の大人に相談できる」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国平均を下回っていることから、「SOSの出し方に関する教育」を継続し、先生やスクールカウンセラーにいつでも相談してもよいという意識を高めることが大切であると考えます。

次に「健康・体力の向上」についてですが、中学校の生徒には、「毎日同じ時間に寝る」「毎日同じ時間に起きる」という質問に対し肯定的に回答した割合が全国平均を上回っていることから、規則正しい生活習慣がある程度身に付いている様子がうかがえましたが、小学校の児童にはあまり身に付いていない様子がうかがえました。このことから、生活リズムの乱れが心身に与える影響について、保健の授業での重点的な指導や資料等を活用した継続的な啓発が大切であると考えます。

続いて、4ページと5ページをご覧ください。

本市と全道や全国の平均正答率及び本市の差を記載しています。先ほど、概要をお伝えしたため、詳細な報告は省略させていただきますが、5ページの中学校理科について補足します。本市では、IRTバンド4の層が全国平均を上回り、2と3の層が下回っています。IRTバンド3が全国の平均的な層であることから、理科の学力がある程度定着していることがわかります。

続いて、6ページをご覧ください。普段の授業についての質問に関する、肯定的な回答率を記載しています。

本市の特徴としまして、小学生は、理科について、平均正答率は全国よりも下回っていますが、教科や授業について大変肯定的に捉えています。また、中学生は、数学について、平均正答率が全国と同等でしたが、教科に苦手意識をもっていることがわかります。

続いて、7ページ・8ページをご覧ください。各教科の合計得点を各年度毎比較できるグラフで表しています。

毎年、問題の難易度が異なるため、過年度の平均正答率と比較することは適当ではありませんが、小学校算数科につきましては、全国平均と差が徐々に開きつつあります。

続いて、9ページから12ページをご覧ください。学力調査の結果と分析を文章で記載しております。これまでの説明と重なりますので、説明は省略します。

続いて、13ページから17ページをご覧ください。質問調査の結果と分析を記載しております。こちらもこれまでの説明と内容が重複しますので、説明は省略します。

最後に、18ページ19ページをご覧ください。調査結果を踏まえた学校における学習指導のポイントを記載しています。

主な内容としましては、

「何ができて、どこでつまづいているのか、児童生徒一人一人の実態を的確に把握すること、その上で、できるようになるまで繰り返し指導すること」

「市教育委員会が導入したA Iドリルや算数数学のデジタル教科書の活用をこれまで以上に進めること」

「児童生徒自身が、目標を立て、解決までの見通しをもち、粘り強く取り組むこと力を養うこと」

「受け身ではなく、考えを頻繁に表現する授業をすること」

などを記載しています。

市教育委員会としましては、今回の全国学力・学習状況調査結果を踏まえた「学校における指導のポイント」を校長会義や教頭会議、各種研修会等の場で繰り返し説明してまいります。また、今年度の全国学力・学習状況調査の小学校算数科に係る問題の解き方を説明する解説資料を作成し周知することで、学校での指導や家庭学習に役立ててもらいます。併せて、先ほどの繰り返しになりますが、今年度導入したA Iドリルや算数数学のデジタル教科書の活用を一層推進し、一人一人の学力が確実に高まるよう取組を進めてまいります。

長くなりましたが、説明は以上です。

**安宅教育長：**ただ今、説明のありました件について、ご質疑等ございませんか。

(「ありません」の声あり)

**安宅教育長：**次に、「令和7年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）の開催について」説明をお願いします。

**菅野文化・文化財主幹：**「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）の開催について」情報提供させていただきます。

本事業は学校などを会場に、トップレベルの文化芸術団体による巡回公演をとおして、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的とした文化庁の事業です。

本市においては、平成28年度から市内の小学校6年生を対象に実施しております。

今年度は、「劇団 前進座（ぜんしんざ）」による古典落語を基にした江戸時代のお芝居「くず〜い屑屋でござい」です。

子ども達はお芝居の鑑賞とともに、江戸時代の暮らしについても学びます。

開催日時は9月12日金曜日、時間は13時30分から15時10分を予定しております。会場は、総合体育館です。

事前にご連絡いただきましたら駐車場などご案内いたしますので、お時間がありましたらぜひご来場ください。

**安宅教育長：**ただ今、説明のありました件について、ご質疑等ございませんか。

(「ありません」の声あり)

**安宅教育長：**次に、「登別市立図書館整備検討委員会における検討結果について」説明をお願いします。

**鈴木図書館長：**「登別市立図書館整備検討委員会における検討結果について」情報提供いたします。資料22ページをご覧ください。

初めに、これまでの経緯ですが、図書館本館の今後については、本年6月に登別市立図書館整備検討委員会から登別市立図書館協議会に議論の場を移して協議が重ねられてまいりました。

6月4日に登別市立図書館協議会へ諮問した「登別中央ショッピングセンターアーニス内への図書館移転について」に対し、7月17日に答申書が提出されたことを受けまして、7月31日に登別市立図書館整備検討委員会を再開いたしました。

7月31日の第11回登別市立図書館整備検討委員会では、「移転の可否について最終的な結論を取りまとめるには至らなかった」という図書館協議会からの答申結果および移転容認・反対それぞれの立場からの意見などを報告したうえで、協議を行いました。

その結果、登別市立図書館整備検討委員会においても、図書館協議会と同様に委員会としての結論をまとめず、各委員がアーニスへの移転に対する意見について文書を事務局へ提出することとし、同日をもって当該委員会は解散することとなりました。

次に、登別市立図書館整備検討委員会委員から提出された意見ですが、途中で辞任された2名を除く全15名の委員から提出された意見としましては、アーニスへの移転を容認する方が10名、移転を反対する方が3名、明確な意思表示をされなかった方が2名でした。

容認・反対それぞれの意見を申し上げますと、まず移転を容認する方の主な意見として、

- ・現図書館の課題点（安全性や利便性、障がいがある方の利用）を解消し、図書館としての環境を改善することが必要である。

- ・移転にあたっては、明るさや音など室内環境への配慮、図書館の専門家による設計、市民意見の聴取、避難経路など安全性の確保、郷土資料の保全などを条件とする。
- ・アーニス側にも、共用スペースの整備を要望したい。
- ・アーニス移転がベストではないが、現状維持は容認できない。
- ・移転しない場合の具体的な打開策が見つからず、最悪の場合は閉館となることが危惧される。
- ・移転にあたっては、車椅子だけでなく様々な面からのバリアフリーを実現して欲しい。
- ・移転によりサービスの拡充や利用率の向上が期待できる。

などが挙げられました。

また、次のページに移りまして、移転に反対する方の主な意見として、

- ・アーニスの経営状態が今後悪化した場合の対処についての説明が不足している。
- ・市の計画や移転案検討の過程、会議の在り方、市からの説明に矛盾や疑義を感じた。不信感が募り、納得できない。
- ・利用者の声が反映されず、反対市民に寄り添わない行政の姿勢に誠意が見られない。
- ・アーニスでは社会教育施設として図書館機能が果たせない危惧がある。
- ・図書館施策への理解が浅い。知識や情報収集力が不足している。
- ・将来像が描けず、過去の図書館行政を顧みること無くアーニスへ移転しても課題が解消するとは考えにくい。

などが挙げられました。

次に、今後の検討についてですが、登別市立図書館協議会からの答申書および登別市立図書館整備検討委員会委員からの意見書のほか、今後、実施を予定する市民アンケート調査の結果なども参考に、教育委員会としての方針を決定することとします。

最後に、アンケート調査についてですが、教育委員会としての方針を検討するにあたり、図書館の利用実態や図書館への要望、図書館の方向性などについての意見を把握することを目的としています。

調査人数につきましては、市民向け調査が無作為で抽出した19歳以上の市民5,000人、学生向け調査が市内の中学校・中等教育学校・高等学校の全生徒 約1,600人を予定しています。

調査期間は9月8日から9月26日とし、調査内容は図書館を利用したことがある方に向けて図書館の利用状況や利用目的、図書館を利用する際の困りごとや不満点、図書館を利用したことが無い方に向けて図書館を利用しない理由、全員に対して図書館の方向性や今後の図書館に望むこと などをお聞きしたいと考えております。

本件の説明は、以上でございます。

**安宅教育長**：ただ今、説明のありました件について、ご質疑等ございませんか。

赤井委員：このアンケートの後の予定を教えてください。

鈴木図書館長：アンケートにつきまして9月の末の方、26日までという事で設定していきまして、その後なんですけれども、もし仮に移転するということになった場合には、令和8年度に観光経済部が新庁舎に移転後の改修工事というような形になるかと思うんですが、事務スケジュールにつきましては検討の過程において、その時々状況を勘案しながら進めていかなければいけないところが出てくると思いますので、一定の方向性、アンケートの後の方向性が定まってきた際には、また改めて情報提供させていただきたいと思いますので。

安宅教育長：目処としてはだいたいどのぐらいになってくるのでしょうか。アンケートのとりまとめ。

鈴木図書館長：とりまとめは一応、10月の中旬ぐらいまでには、ある程度回答の集計ができれば、と考えています。

安宅教育長：それを基に、今までの検討内容を含めて、方向性を委員会としてある程度まとめてということは今想定しているということですね。

安宅教育長：その他事務局から情報提供などはありませんか。

古村総務グループ総括主幹：議決後、改めて報告させていただきますが、木村委員と安宅教育長の任期が本年10月となっており、令和7年第3回登別市議会定例会において、再任の議案が提出される予定となっておりますので、情報提供いたします。

安宅教育長：それでは、すべての案件が終了しました。  
委員の皆様より、情報提供等ございませんか。

(「ありません」の声あり)

安宅教育長：最後に、9月の定例教育委員会の開催日について予定したいと思いますが、次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

**古村総務グループ総括主幹**：定例の教育委員会につきましては、毎月最終木曜日に開催しているところでありますので、9月については、9月25日木曜日16時30分からと考えております。

**安宅教育長**：それでは、事務局より提案のありました9月25日木曜日16時30分で皆様のご都合は如何でしょうか。

（「大丈夫です」の声あり）

**安宅教育長**：では、決定とさせていただきます。詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ願います。

以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。